

こんなタイトルの記事が、読売新聞4月8日付のくらし家庭欄に掲載されていた。教員を定年退職後、漫然とした日々を送る中でYouTubeに刺激を受け、「自分も趣味を撮ろう」と投稿を始め、最近では週4日ほどに投稿が増え、ユーチューバーならぬ「じいチューバー」として活動、視聴者と交流を図っている人の姿が紹介されていた。

今、コロナ下で自宅で過ごす時間が増える中、身近な暮らしをテーマにした動画を投稿するシニアが増えているという。写真や動画がスマホで簡単に撮れるようになったことや、視聴者と新たな交流が生まれることも魅力のようだ。

ユーチューバーとは、動画配信サイト「YouTube (ユーチューブ)」へ自作の動画を投稿する人を指し、一度動画をアップロードすれば誰でもユーチューバー。広告収入を得るには、投稿した動画の総再生時間やチャンネル登録者数などの一定の条件を満たし審査に通らねばならないが、この広告収入で生活している人も多くいる。

(ちなみに、収益化の条件は、直近12ヶ月の総再生時間が4,000時間以上、チャンネル登録者数が1,000人以上、広告掲載に適したコンテンツであることなど)

収益化はともかく、なにより無料で利用出来、交流の場も提供してくれるので大変有難い。アップロードも簡単で、セキュリティーやデータ管理も行き届いている。これを利用しない手はないだろう。

実は、私も一応ユーチューバーの端くれ。もう10年以上になる。これまで投稿した数は146件、チャンネル登録者は210人ほど。1件当たりの再生回数は2～3桁が大半だが、4桁は50件、5桁も3件ほどあり、これまでの最高は楽器演奏の動画で34,380回。動画の内容は、楽器演奏や替え歌、旅行の記録、カラオケ、ボランティア演奏会、地域の行事など趣味や暮らしをテーマにしたもの。

最新のものは、今月投稿した替え歌動画「プーチンの嘘」。連日ウクライナの民間人虐殺や街の破壊が伝わってくる。嘘で固められた戦争。あの顔を見ると腹が立って気分が悪くなる。YouTubeの投稿で憂さを晴らしながら、気ままに趣味や日常を撮って楽しんでいる。れっきとした「じいチューバー」といえるかも知れない。

今、カメラやパソコンを使わなくても、スマホだけで撮影から編集、YouTubeへのアップロードまで出来てしまう。その気にさえなれば、暮らしの一ページを、いつでもどこでも撮影してYouTubeから楽しめる。一般公開に抵抗があれば、YouTubeの設定を「非公開」にすれば、自分や家族などに限定して利用することが出来る。

利用の目的はさまざま。目的に合わせてうまくYouTubeを利用すれば、これからの人生をもっと楽しく輝くものにすることが出来るだろう。

健康づくり、認知機能の維持向上のためにも、おすすめします。

(2022/04/26)